

2026年5月27日

各 位

GMO あおぞらネット銀行株式会社

3つのAIエージェント化を同時宣言 世界初の次世代テックバンクとなることを見据えた戦略を公表

GMO あおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）は、2021年7月に「第二創業」として掲げた「法人のお客さまに特化する戦略」のもと、多くのお客さまにご利用いただき、2026年3月期において最終利益の黒字化を達成し、経営基盤の確立に向けた重要な一歩を踏み出しました。

これらを確固たる土台とし、2026年からの中長期戦略の1つとして、「01 お客さまのためのAI銀行」「02 銀行そのものをAI変革」「03 AIのためのAI銀行」の実現に向けて、3つのAIエージェント化を掲げます。この3領域同時にAIエージェント化することを宣言し、取り組みを推進する商業銀行は世界初※となります。

※2026年5月22日時点：公開情報（各社プレスリリース、IR資料、報道発表等）に基づく調査結果による当社調べ。



実現に向けた3つのAIエージェント化宣言

01 お客さまのためのAI銀行

02 銀行そのものをAI変革

03 AIのためのAI銀行

【「AI銀行化」構想の全体像 —3領域同時にAIエージェント化】

① お客さまのためのAI銀行	“あなたのビジネスに、最良の相棒”をキャッチコピーに、お客さまごとに専属のAIエージェントが伴走する、究極のパーソナライズド・バンキングを実現します。業界、企業規模、利用したい機能、好みのテイストなどをAIがヒアリングし、その結果に基づき、インターネットバンキングのトップ画面のデザインまでを自動生成し、お客さま一人ひとりに最適化された銀行体験を提供します。2026年11月から提供開始予定であり、その後も継続的に進化させてまいります。
② 銀行そのものをAI変革	2028年度までに内部業務そのものをAIエージェント前提で再構築する「AI Transformation（以下AX）」を完了し、現在の2,800業務を1,100AIエージェントに置き換えます。当社専用の「AIエージェント」の構築・管理には、Gemini Enterprise Agent Platformを利用します。今後も現役職員約400名は変わらず、人員換算で約40,000名規模に相当する業務遂行力を持つ組織へと進化します。

	<p>この 2,800 業務は、既に全社・全業務の棚卸しに AI を活用し、約 2 カ月で洗い出し、業務を可視化しました。現在 AI エージェントの開発と最適化を進めています。AX の推進により、最終的には AI が AI を監視する組織を再設計し、24 時間 365 日・完全即時オンライン処理、リアルタイム経営、「人が創造し AI が実行する」体制を実現します。</p>
<p>③ AI のための AI 銀行 (API ファースト)</p>	<p>「人にも AI にも選ばれる銀行でなければ生き残れない」という強い危機感を持っています。そのため、サービス契約数累計 1,100 件超の BaaS 実績に裏打ちされた高品質かつ豊富な API (アプリケーション・プログラミング・インターフェース) 群に加え、AI エージェントが自律的に最適な金融機能を選択・実行する「Agentic API」※を 2027 年 3 月までに構築します。</p> <p>公開 MCP (Model Context Protocol) にも対応し、AI システムが直接アクセスしやすい環境を整備し、エンジニア以外も自然言語で、金融機能を組み込むことができる開発環境の提供を目指します。</p> <p>※「Agentic API」については、本年夏頃にエンジニア向けの説明会イベントを予定しております。</p>

01 お客様のためのAI銀行

<ユースケースに合わせて最適化されたインターネットバンキング画面例>

■ユースケース① 建設業・従業員 8 名の企業



AI銀行のユースケース

- ◆ 請求書画像を读取→
振込データを自動生成し手入力を解消
- ◆ 今月末この残高で足りますか？
にチャットで即答
- ◆ 入金遅延を検知→支払先と金額を
自動で後ろ倒し提案
- ◆ 資金ショートを3週間前に予測
振替・貸付を先回り提案

■ユースケース② 飲食業・従業員 5 名の企業



AI銀行のユースケース

- ◆ 2店舗の損益をAIが月次サマリーで報告し
継続判断を支援
- ◆ 今週の仕入れ予算いくらまで？に残高と
来週の入金予定額から予測し即答
- ◆ 複数決済サービスの入金を1画面に集約・
着金予定も可視化
- ◆ 引落3日前にプッシュ通知+残高不足なら
振替を自動提案

■ユースケース③ ITコンサルティング業・一人法人



AI銀行のユースケース

- ◆ 未入金先への状況確認も AIエージェントが自律的に実行
- ◆ 消費税・法人税の納付見込みから毎月の自動積立額を提案
- ◆ SaaS経費を自動カテゴリ分類 →使っていないサブスクを指摘
- ◆ 税理士共有用の月次レポートをワンタップ生成

03 AIのためのAI銀行

【※AIのためのAI銀行「Agentic API」の説明会イベント開催について】

本年夏頃にエンジニア向けの説明会イベントを予定しております。説明会では、「Agentic API」の提供予定機能や実装ユースケースに加え、本格提供に先駆けて公開するサンドボックス環境「API 実験場 sunabar 2.0」などのご紹介を予定しています。ご関心のあるエンジニアの皆さまは、以下 URL より連絡先をご登録ください。詳細が決まり次第、ご案内いたします。

登録 URL : <https://gmo-aozora.com/form/detail.html?id=3>

当社は、2021年7月の「第二創業」における公約達成と黒字化によって築いた確かな土台を礎に、2028年度までに全業務のAI化を完遂し、「新章開幕」フェーズへと移行してまいります。世界初となる「3領域」同時のAIエージェント化を目指す取り組みを通じ、テクノロジーを協働者として、お客さま一人ひとりに「最良の相棒」を、社会に新しい金融インフラを、そしてAIにも選ばれ続ける銀行の実現に向けて、引き続き業界の先陣を切ってまいります。

グーグル・クラウド・ジャパン合同会社 執行役員 綱田 和功さま のコメント

AIが金融サービスにおいて重要な役割を担うようになる中、GMO あおぞらネット銀行の「AI銀行化」構想は、次世代の金融インフラを切り拓く先進的な取り組みです。

Google Cloud は、これまで技術パートナーとして、同行の業務効率化・自動化への取り組みを支援してまいりました。次なるフェーズにおいても、Google Cloud の持つ幅広い AI テクノロジーを通じて、この構想の進化を全面的に支援してまいります。

GMO あおぞらネット銀行の「AI銀行化」構想が、お客さま、そして社会全体に新たな価値をもたらすことを心より歓迎いたします。

【参考 URL】

2021/7/6 発表 インターネット銀行事業開始から4年目の本年を「第二創業期」と位置づけ 中長期の事業戦略を公表	https://gmo-aozora.com/news/2021/20210706-02.html
銀行 API	https://gmo-aozora.com/business/api-cooperation/
sunabar -GMO あおぞらネット銀行 API 実験場	https://gmo-aozora.com/baas/sunabar/

【GMO あおぞらネット銀行株式会社 会社概要】

本店：東京都渋谷区道玄坂 1-2-3 渋谷フクラス
代表者：代表取締役会長 金子 岳人、代表取締役社長 水町 哲
資本金：266 億 2,998 万円
URL：<https://gmo-aozora.com/>

【報道関係者さまからのお問い合わせ】

GMO あおぞらネット銀行株式会社 コーポレートコミュニケーショングループ 免田
E-mail：pr@gmo-aozora.com

※記載されている会社名、製品名、サービス名は、各社の商標または登録商標です。

以上